

終りのない飢え渴き

どうか、私の及びがたいほど高い岩の上に、私を導いてください。

(詩篇 61 : 2)

イエスが語られた天の御国の話は、神の側にいると成長し、良い実を実らせるという内容がほとんどでした。まことのぶどうの木であるイエスの側にいることと成長とは同意語であり、逆に言えば、人生における霊的成長は、神の御国の領域で生きている証拠なのです。

しかし、信仰の成長が止まってしまうことがあります。これ以上神との関係を深めることができなと感じる、霊的停滞期に陥ることがあります。しかし、感謝なことに、私たちのそのような結論を主は否定されます。今より優れた霊的生活を切望するとき、大抵私たちは霊的に落ち着きを失ってしまいます。そして、この終りのない飢え渴きこそが、私たちの内で霊が働いておられる証拠です。

成長が次の段階に進む前に、神はよく私たちの内に変化を求める強い願望を起こさせます。最初の成長期をかなり過ぎた後になっても、この段階は成長し続ける流れを作ります。神に対する願望は単に満足に終るだけでなく、さらなる渴望へと導くと多くの聖人たちは言いました。ですから、飢え渴きは神との関係を深めている証拠なのです。渴望は、魂が次の段階へ成熟している表れです。成長したいという願望はすなわち、神と関係を持っていることに他なりません。

14世紀のキリスト教神秘主義者ノリッチのジュリアンは、かつて主からみことばを受け、神から与えられた願望について理解することができました。彼女が受けた多くの「啓示」の一つで、主はジュリアンに現れておっしゃいました。「私は、汝の求めているものの源である。汝に求めるように仕向けたのが私なら、汝が求めている物を私が与えないことがあるだろうか。」

ジュリアンが神を求めるよう導かれたということは、彼女の望んだものはすでに手の届く範囲にあるという証拠でもあります。神と一つになりたいという願望を与えたのが神なら、この渴きを持つこと自体、それは必ず成就するという保証を神から頂いたのも同然なのです。

質問：

1 神と一つになりたいという願望は、どのような形であなたの心の中で表現されていますか。

2 自分の霊的生活に対する不満は、実は神からの賜物だとこの黙想は示唆しています。霊的生活の不満に対して、あなたは他にどのような否定的な反応をしますか。

3 なぜ、霊的飢え渴きは、神との関係において成長している証拠と言えますか。そのような願望がないことは、どのように不健全な魂の状態を表していますか。

祈り：私たちの深い飢え渴きは、内なる不十分さを明らかにするというよりも、尊い賜物であり、いつの日か満足に導かれるものと捉えることができます。現在霊的生活で感じている願望がどのようなものであっても、神に感謝をささげ、どのようにその願望が与えられたか、考えてみてください。